

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和6年度～令和10年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（かみかわなんぶ） 上川南部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 かみかわちゅうぶ 上川中部森林管理署 かみかわなんぶ 上川南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の中央部に位置する旭川市<small>あさひかわ</small>を含む2市8町1村（流域面積約565千ha）にまたがる、上川中部森林管理署及び上川南部森林管理署管内の国有林野約275千haを対象としている。</p> <p>本計画区内の約75%を森林が占め、そのうちの約65%が国有林となっている。国有林の森林の現況は、人工林が約51千ha、天然林が約189千haとなっており、人工林はトドマツ（74%）、エゾマツ（18%）を主な樹種とし、天然林はトドマツ、エゾマツ等の針葉樹とミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹からなる針広混交林である。</p> <p>森林の蓄積量は145 m³/haで、高標高地が含まれていること等から北海道の平均154 m³/haよりも若干少なくなっている。人工林の齢級構成は10齢級をピークとする一山型であり、人工林面積のうち約63%が10齢級以上となっている。</p> <p>また、約275千haの国有林野のうち約94%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、道央地域の水源林としての機能のほか、基幹産業である農業の振興や、近年進められる観光事業に資する観点からも適切な森林整備が求められている。</p> <p>本計画区は大雪山系<small>たいせつざん</small>、夕張山地<small>ゆうばり</small>を中心として優れた山岳景観を有しており、大雪山国立公園<small>ふらのあしべつ</small>、富良野芦別道立自然公園は、保健休養の場として国内外から多くの観光客が訪れ、観光資源としての特性も兼ね備えている。</p> <p>また、十勝岳<small>とちかだけ</small>をはじめとする道内有数の火山地帯でもあり、十勝岳周辺は火山泥流災害の危険地域、北部の層雲峡地区<small>そうんきょう</small>は土石流災害の危険地域となっており、山地災害防止機能の発揮が強く求められている。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新、林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システム、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コンテナ苗植栽などによる造林及び保育の低コスト化の取組を推進することにより、本地域における林業の成長産業化の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、以上のような地域の期待に応えるためにも、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備を推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の向上を図るための</p>		

	<p>路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <table border="0"> <tr> <td>主な事業内容</td> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>802ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育面積</td> <td>15,416ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>56.04km</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.82km</td> </tr> </table> 総事業費 8,941,688 千円（税抜き 8,128,807 千円） 	主な事業内容	森林整備	更新面積	802ha			保育面積	15,416ha		路網整備	開設延長	56.04km			改良延長	0.82km
主な事業内容	森林整備	更新面積	802ha														
		保育面積	15,416ha														
	路網整備	開設延長	56.04km														
		改良延長	0.82km														
費用便益分析	<p>総便益（B） 41,980,873 千円</p> <p>総費用（C） 10,429,625 千円</p> <p>分析結果（B/C） 4.03</p>																
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であるとする。</p>																
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <p>必要性： 本地区の森林は、10 齢級以上の面積割合が約 63%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。また、計画路線の一部は災害発生時に迂回路としての活用が見込まれている。そのため路網整備と保育を中心とする森林整備を進め、今後の木材産業の振興や山村振興に寄与することが期待されている。さらに、観光資源としての特性を持つ富良野芦別道立自然公園や大雪山国立公園での保健・レクリエーション機能、十勝岳火山地帯を含む土砂災害防止機能/土壌保全機能および基幹産業である農業の振興に資する水源涵養機能等の森林の有する多面的機能の発揮が求められている。以上により、本地区の森林環境保全整備事業の必要性が強く認められる。</p> <p>効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着、伐採と造林の一貫作業などによる伐採再造林の経費縮減等が図られていることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、水源林の保全や地域の基幹産業である農業の振興、地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的</p>																

に計画されていると認められる。

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和6年度～令和10年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりせいぶ） 網走西部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 あばしりせいぶ 網走西部森林管理署 にしもんべつ 網走西部森林管理署西紋別支署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道北東部のオホーツク海側に位置する^{えんがる}遠軽町を含む1市3町（流域面積約474千ha）にまたがる、網走西部森林管理署及び網走西部森林管理署西紋別支署管内の国有林野約191千haを対象としている。</p> <p>本計画区内の約81%を森林が占め、そのうちの約50%が国有林となっている。国有林の森林の現況は、人工林が約52千ha、天然林が約127千haとなっており、人工林はトドマツ（78%）、カラマツ（13%）を主な樹種とし、天然林はトドマツ、カラマツ等の針葉樹とミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹からなる針広混交林である。</p> <p>森林の蓄積量は181 m³/haで、北海道の平均154 m³/haより多い。また、人工林の齢級構成は10齢級をピークとする一山型であり、人工林面積のうち約62%が10齢級以上となっており、森林資源の充実とともに本格的な利用期を迎えている。</p> <p>さらに、約191千haの国有林野のうち約90%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、地域の水源林として機能するほか、基幹産業である農業及び水産業の振興に資する観点からも適切な森林整備が求められている。</p> <p>本計画区には網走国定公園及び^{てしおだけ}天塩岳道立自然公園に指定されている国有林野があるほか、^{しよこつだけ}渚滑岳、ウエンシリ岳等の優れた山岳景観や^{まるせつが}丸瀬布温泉等の温泉施設を有するなど豊富な観光資源に恵まれており、登山等のレクリエーションの場として多くの人々に利用されている。</p> <p>また、本地区は従来から建築用材等の生産が盛んであることに加え、木質バイオマスエネルギー利用についても活発な動きが出ていること等から、木材の安定供給の確保に関して国有林に対する期待も高くなっており、本計画区では平成19年12月に国有林全域でSGEC森林認証を取得し、持続的な森林経営や認証材を活用した地域づくりを推進している。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新、林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システム、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コンテナ苗植栽などによる造林及び保育の低コスト化の取組を推進することにより、本地域における林業の成長産業化の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p>		

	<p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、以上のような地域の期待に応えるためにも、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備を推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の向上を図るための路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>735ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>16,516ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>39.10km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.15km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 12,077,722 千円（税抜き 10,979,747 千円） 	森林整備	更新面積	735ha		保育面積	16,516ha	路網整備	開設延長	39.10km		改良延長	0.15km
森林整備	更新面積	735ha											
	保育面積	16,516ha											
路網整備	開設延長	39.10km											
	改良延長	0.15km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">53,669,165 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">15,067,003 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B／C）</td> <td style="text-align: right;">3.56</td> </tr> </table>	総便益（B）	53,669,165 千円	総費用（C）	15,067,003 千円	分析結果（B／C）	3.56						
総便益（B）	53,669,165 千円												
総費用（C）	15,067,003 千円												
分析結果（B／C）	3.56												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本地区の森林は、10 齢級以上の面積割合が約 62%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。そのため、路網整備と保育を中心とする森林整備を進めることが期待されている。特に、建築用材やバイオマスエネルギーの地産地消も進んでおり、国有林からの木材の安定供給が求められている。また、天塩岳道立自然公園や温泉などの観光資源の維持、基幹産業である農業とオホーツク沿岸の水産業の振興に資する水源涵養機能の発揮も併せても求められている。以上により、本地区の森林環境保全整備事業の必要性が強く認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着、伐採と造林の一貫作業などによる伐採再造林の経費縮減等が図られていることから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、水源林の保全や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興や地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各</p>												

観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和6年度～令和10年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（とちち） 十勝森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 とちちとうぶ 十勝東部森林管理署 とちちせいぶ 十勝西部森林管理署 ひがしだいせつ 十勝西部森林管理署東大雪支署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の南東部に位置する足寄町を含む1市12町2村（流域面積約1,083千ha）にまたがる、十勝東部森林管理署、十勝西部森林管理署及び十勝西部森林管理署東大雪支署管内の国有林野約419千haを対象としている。</p> <p>本計画区内の約64%を森林が占め、そのうちの約60%が国有林となっている。国有林の森林の現況は、人工林が約54千ha、天然林が約331千haとなっており、人工林はトドマツ（65%）、エゾマツ（20%）を主な樹種とし、天然林は、トドマツ、エゾマツ等の針葉樹とミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹からなる針広混交林である。</p> <p>森林の蓄積は、183 m³/haで、北海道の平均154 m³/haより多い。また、人工林の齢級構成は10齢級をピークとする一山型であり、人工林面積のうち約55%が10齢級以上となっており、森林資源の充実とともに本格的な利用期を迎えつつある。</p> <p>さらに、約419千haの国有林野のうち約95%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、地域の水源林として機能するほか、基幹産業である農業及び水産業の振興に資する観点からも適切な森林整備が求められている。</p> <p>本計画区は、日高山脈森林生態系保護地域、大雪山森林生態系保護地域等の保護林や、十勝川源流部原生自然環境保全地域など、学術的に貴重な森林も多く、大雪山国立公園、阿寒摩周国立公園及び日高山脈襟裳国立公園に指定されている国有林は、森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として多くの人々に利用されており、観光資源としての特性も兼ね備えている。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新、林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システム、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コンテナ苗植栽などによる造林及び保育の低コスト化の取組を推進することにより、本地域における林業の成長産業化の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、以上のような地域の期待に応えるためにも、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備を推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の向上を図るための</p>		

	<p>路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>2,722ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>33,455ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>21.69km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>1.01km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 14,876,434 千円 (税抜き 13,524,031 千円) 	森林整備	更新面積	2,722ha		保育面積	33,455ha	路網整備	開設延長	21.69km		改良延長	1.01km
森林整備	更新面積	2,722ha											
	保育面積	33,455ha											
路網整備	開設延長	21.69km											
	改良延長	1.01km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td style="text-align: right;">93,280,242 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td style="text-align: right;">19,714,463 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td style="text-align: right;">4.73</td> </tr> </table>	総便益 (B)	93,280,242 千円	総費用 (C)	19,714,463 千円	分析結果 (B/C)	4.73						
総便益 (B)	93,280,242 千円												
総費用 (C)	19,714,463 千円												
分析結果 (B/C)	4.73												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であるとする。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本地区の森林は、10 齢級以上の面積割合が約 55%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えつつある。そのため路網整備と保育を中心とする森林整備を進め、今後の木材産業の振興に寄与することが期待されている。また、日高山脈森林生態系保護地域等の学術的に貴重な地域や、多くの人々に利用される大雪山国立公園等の観光資源としての機能を併せ持つ森林が分布している。さらに、基幹産業である十勝の農業と、十勝・釧路沿岸の水産業の振興に資する水源涵養機能の発揮も併せて求められている。以上により、本地区の森林環境保全整備事業の必要性が強く認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着、伐採と造林の一貫作業などによる伐採再造林の経費縮減等が図られていることから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、水源林の保全や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興や地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能 (特に水源涵養) に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。</p>												